

地下漏水の止水工法

施工手順

- 1 通常清掃する。 エフロはケレンもしくはサンダー掛けで除去、油等が付着している場合はアルカリ洗剤（SC クリーナー）にて洗浄する。また、塗装等がされている場合はそれを除去する。
- 2 経年劣化が激しく、エフロが多く発生している場合は、コンクリート内の水酸化カルシウムが放出されているため、S クリートアップ止水タイプの反応が小さくなり止水効果が得られないことがある。 その際は別途S クリート CA+（浸透性カルシウム付加剤）を事前に塗布して、カルシウムを補填する。
- 3 S クリートアップ止水タイプ（ケイ酸塩系含浸剤）塗布 通常は 200 cc/m^2 の塗布量だが、漏水の止水の場合は $300 \sim 400 \text{ cc/m}^2$ を塗布する。 塗布回数は 3～4 回になるが、乾燥を待つ必要はなく、1 時間程度のオープントイムで塗布可能（浸透し蝕指して指につかなくなれば次の塗布が可能） 塗布にはローラーか噴霧器になるが、床面などはS クリートアップ止水タイプを流し込みローラー等でならしていく方が作業効率が良い。
- 4 S クリートアップ止水タイプを塗布する際は、極力乾燥時が良いのだが、漏水が継続している場合は、ウェスカスポンジで水を吸い取りながら塗布する。 S クリートアップ止水タイプは下地が湿潤状態でも問題なく浸透していく。
- 5 クラックからの漏水の場合は、S クリートアップ止水タイプを塗布後、乾燥する前に極力速やかに S クリートクラック工法（超微粒子セメントクラック注入剤）にてクラックを補修する。 また、S クリートクラックはUカットの必要はない。
- 6 S クリートクラック工法の調合は、セメント 1 に対し専用樹脂 0.2 水を 0.8 の割合で良く混ぜ合わせて、マヨネーズ程度の粘度にする。 超微粒子セメントは乾燥すると白くなるため、製品付属の黒顔料を加えて色調整する。
- 7 S クリートクラックは、クラック幅が $0.2\text{mm} \sim 2\text{mm}$ 程度まで補修可能、 0.2mm 以下のクラックはS クリートアップ止水タイプ塗布だけで問題ない。

- 8 調合した S クリートクラックをクラックに沿ってゴムベラにてクラックに押し込むようにすり込んでいく。表層に残った材料は金ベラなどでそぎ取り、クラック内だけに収めるようにする。
- 9 床と立上りの塵際にはゴムベラは使いづらいので、刷毛にてすり込んでいく。
1 番漏水の起こりやすい箇所なので、特に念入りにすり込む。
- 10 コールドジョイントやクラックからの漏水に関しては、漏水箇所周辺を打診検査し、ジャンカの有無を調査する。ジャンカがあった場合は、その部位を研り、S クリートアップ止水タイプを研り面に対し十分に塗布し、S クリートクラックを刷毛にてしごき塗り、その後ポリマーセメントにて埋め戻す。
- 11 ジャンカが無かった場合は、コールドジョイント部に S クリートアップ止水タイプ塗布後、S クリートクラックをゴムベラにてすり込む。
- 12 S クリートアップ止水タイプのポズラン反応は 2 週間以上かかる為、しばらく経過観測する。仮に 1 か月以上経過しても止水されていない場合（漏水は軽減されていると思われる）は、再度 S クリートアップ止水タイプを塗布し経過観測していく。

株式会社バークス環境。